



サンバー限定モデル計画、始動。②

長い歴史を誇る実車とミニカー・ブランドのコラボレーションとは？



※写真はプロトタイプ

国産車の歴史を語る上で欠かすことの出来ない存在と言えば、真っ先にスバル360の名を上げる人も多いかと思いますが、そのスバル360の主要コンポーネントを利用して生まれた商用車が、ご存知スバル・サンバー。日本の国民車とも言えたスバル360とサンバーの関係は、ちょうどドイツのフォルクスワーゲンのタイプ1（ビートル）

とタイプ2（トランスポーター）の関係を連想させますが、既に現行のVWトランスポーターは、そのルーツとなったビートルとは機械的な共通点のない前輪駆動を採用しているのに対し、スバル・サンバーはそのデビュー以来、連続とリア・エンジン方式を貫いてきました。エンジン自体は360cc空冷2サイクルの2気筒から660cc水冷4サ

イクル4気筒へと進化を続けつつも、スバル360の遺伝子を強く感じさせる現行サンバーでしたが、いよいよ今年2月で生産中止。生誕50周年という歴史の節目に、生産中止が決定したとは何とも複雑な思いですが、そんなサンバー生誕50周年を記念して作られた最後の特別記念モデルが“WR BLUE LIMITED”でした。

先月号では、そのWRブルー・リミテッドのミニカーがダイヤベットからリリースされる!! というニュースを速報でご紹介したわけですが、今月その続報を。先月の時点ではまだ無塗装状態でしたが、今回お見せするのはその後、塗装が施されたモデル。世界ラリー選手権（WRC）で幾多の栄冠に輝いたスバル・インプレッサのワークス・カーと同様のWRブルー・マイカのボディは、まだ試作段階とはいえ、その存在感はインパクト十分です。

ちなみに実車のWR BLUE LIMITEDは昨年7月のリリース後、限定1,000

台がわずかな期間で完売したそうですが、このダイヤベットのWR BLUE LIMITEDも限定1,000台。実車と異なりバンは用意されず、ボディ・パリエーションはトラックだけとなります。気になる発売時期と価格ですが、現時点では4月予定／予価¥5,250（税込）とアナウンスされています。というわけで、詳細はさらに次号に続く！



上は試作モデルのリアビュー。左はモデル・カーズ別冊「はたらくクルマ コマーシャル・ビークル」。巻頭ではサンバーの大特集やっています。お求めは全国書店または弊社営業部まで。定価¥2,000（税込）